

○北国生活・それぞれの科学 第 65 回 ヒト先天性銅代謝異常症のウイルソン病について (その 2)

中山憲司

しゃりばり, 2008 年 5 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0128.html> (2008)

ウイルソン病 (WND) の早期診断に向けた取り組みとして, 血清中や尿中のセルロプラスミン濃度を指標とした大規模なスクリーニング検査を利用した早期診断法と, WND の原因となる遺伝子変異の解析を利用した家族内を対象とした早期診断法に関して説明した。また, 当所のこれまでの研究実績に関しても紹介している。

○北国生活・それぞれの科学 第 66 回 キツネが減った!!

浦口宏二

しゃりばり, 2008 年 6 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0134.html> (2008)

北海道では, エキノコックス症の媒介動物であるキツネの数が 1990 年代末に減少した。この原因が, ヒゼンダニの寄生による重篤な皮膚病 (疥癬) と考えられることを解説した。

○北国生活・それぞれの科学 第 67 回 ヒ素～嫌われ元素の代表格～にまつわる話

神 和夫

しゃりばり, 2008 年 7 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0148.html> (2008)

ヒトに健康影響をもたらすことの多いヒ素について, 自然界での化学形態, 無機ヒ素混入による中毒事例, 井戸水汚染による健康被害事例, 魚介類のヒ素などについて解説するとともに, 当所の取り組みを紹介した。

○北国生活・それぞれの科学 第 68 回 メタボリックシンドロームの起源は母親のお腹の中

佐田文宏

しゃりばり, 2008 年 8 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0155.html> (2008)

生活習慣病のなりやすさは, 胎児期環境に依存するという胎児起源説が提唱されている。また, 胎児や小児は有害物に対して脆弱であることも知られている。そのため, 生活習慣病の予防は胎児期から必要かもしれない。

○北国生活・それぞれの科学 第 70 回 北海道における環境放射能調査について

佐藤千鶴子

しゃりばり, 2008 年 10 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0177.html> (2008)

当所では, 環境中の放射能や放射線のレベルを把握する「環境放射能水準調査」を, 国の委託で実施している。北海道内における環境放射能の現況を, 代表的な試料 (降下物と日常食) を例として解説した。

○北国生活・それぞれの科学 第 72 回 記憶喪失性貝毒

上野健一

しゃりばり, 2008 年 12 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0190.html> (2008)

貝毒の中でも麻痺性貝毒や下痢性貝毒とは異なり, 国内規制されていない記憶喪失性貝毒 (ドウモイ酸) について, その毒性, 中毒症状などを解説するとともに, 貝毒監視体制など衛生研究所の取り組みについて紹介した。

○北国生活・それぞれの科学 第 76 回 DNA の量を測る—こんなこともできる “リアルタイム-PCR 法”

鈴木智宏

しゃりばり, 2009 年 4 月号, <http://www.hit-charivari.com/article/data/p0225.html> (2009)

DNA の量を測るための手段としてさまざまな分野で活用されているリアルタイム-PCR 法の原理や検査事例について解説し, さらに本法を用いた衛生研究所での取り組みの一端を紹介した。

企画総務部

○慢性活動性 EB ウイルス感染症の病態と長期予後—EB ウイルス感染症研究会の調査より—

大賀正一¹⁾, 前田明彦²⁾, 木村 宏³⁾, 森尾友宏⁴⁾, 今井章介²⁾, 岡野素彦, 金兼弘和⁵⁾, 河 敬世⁶⁾, 土屋 滋⁷⁾, 森 雅亮⁸⁾, 森本 哲⁹⁾, 谷内江昭宏¹⁰⁾, 岡村隆行¹¹⁾, 脇口 宏²⁾

ヘルペス感染症研究会編, ヘルペス感染症フォーラム, マツキャン・ヘルスケア, 東京, 2008, pp.91-94

本邦における慢性活動性 EB ウイルス感染症の病態と長期予後に関し, 全国調査を行い, 概説した。

¹⁾九州大学医学部, ²⁾高知大学医学部, ³⁾名古屋大学医学部, ⁴⁾東京医科歯科大学医学部, ⁵⁾富山大学医学部, ⁶⁾大阪府立母子保健総合医療センター, ⁷⁾東北大学医学部, ⁸⁾横浜市立大学医学部, ⁹⁾京都府立大学医学部, ¹⁰⁾金沢大学医学部, ¹¹⁾琉球大学医学部